◆愛西市 類型別方針の整理

類型区分		施設管理運営方針	現状分析（グラフ）に伴う方針	公共施設等総合管理計画の方針
公共施設	15 スポーツ施設	<p><体育館></p> <ul style="list-style-type: none"> 指定管理者制度を導入する。 親水公園総合体育館を核として、体育施設全般を一括して指定管理の検討をする。 <p>【社会体育課を親水公園総合体育館に置き、指定管理者制度等の経費削減を検討する。】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「総合型地域スポーツクラブ」活動の拠点として、地域として管理することも検討する。 <p>【立田・佐織体育館を活動拠点としての活用をする。】</p> <p><プール></p> <ul style="list-style-type: none"> 廃止（閉鎖）の方向で調整する。 屋外プールは、閉鎖する傾向にある。（あま市は既に閉鎖） 学校のプール授業の単位も減少している。 <p>【佐織中学校のプール授業は、他校を利用する。】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設が老朽化し多額の修繕費が必要となる。 スイミングクラブ・フィットネスクラブ・レジャー施設など、民間施設もでき市民ニーズに対する必要性が変化している。 <p><運動場></p> <ul style="list-style-type: none"> 指定管理者制度を導入する。 親水公園総合体育館を核として、体育施設全般を一括して指定管理の検討をする。 <p>【社会体育課を親水公園総合体育館に置き、指定管理者制度等の経費削減を検討する。】</p>	<p>【運動場・体育館】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化及び経年劣化の状況については、市と指定管理者で施設状況を把握しており、市の財政状況と照らし合わせながら対応していく。 100万円以下の修繕は指定管理者が行うことになっており、軽微な修繕箇所を蓄積して大規模修繕とならないように、適宜、遅延なく対応していく。 <p>【プール】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状では佐屋プールが漏水により故障となり再開はしないが防犯上の観点からも指定管理者制度において施設維持管理を行っていく。 プール自体の収益が見込めない事からも市の財政面と現在の社会情勢をみて適切に対応を図っていく。 	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務事業の見直しにおける「使用料の見直し方針（案）」の運用により、利用料金制を採用しているスポーツ施設の指定管理者制度において、施設利用料の増収を目指し、将来的には指定管理料の縮減に向けて、施設維持に必要な経費を確保し、老朽化施設への経費を確保し長寿命化を図ります。 また、今後は施設における命名権など、これまで取り入れた事のない施策を市と指定管理者とで考察します。 <p>【体育館】</p> <ul style="list-style-type: none"> 親水公園総合体育館の高い稼働率を使って、指定管理者における事業提案をより効果のあるものを提案し、利用者における施設の付加価値を高めます。また、老朽化の進む佐織体育館、立田体育館においては、地域の特徴をより現実的に把握し、地域の特徴にあった事業提案を行うなど、指定管理者における民間のノウハウを駆使し利用者増による収益の増収を目指します。 <p>【運動場】</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動場の施設についても体育館と同様で、指定管理者における民間のノウハウを駆使し利用者増による収益の増収を目指します。 <p>【プール】</p> <ul style="list-style-type: none"> 佐屋プールが漏水により故障となり再開はしません。今後は取り壊しを含めて市の財政面と現在の社会情勢をみて適切に対応を図ります。また、佐屋プールは佐屋総合運動場と隣接していることから運動場の管理棟として現在は利用していることから、施設の一部を再利用していくとした観点も含めて検証します。
	16 学校	-	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> 佐織中学校を除くと、全体的に老朽化が進んでいるため、予防保全の考え方を踏まえて、計画的に施設の長寿命化を図る必要があります。 面積当たりの人数を見ると、施設によってばらつきがみられるため、人数の少ない施設では複合化等も考慮にいきます。 	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年2月に教育委員会が策定した「愛西市立小中学校適正規模等基本方針」に基づき、計画的・効果的な維持管理・運営について検討します。 学校は市の保有する公共施設の大部分を占めるため、児童・生徒数の推移等を鑑み、サービスの質は維持しつつも、場合によっては、小中一貫校や他施設との複合化等も視野に入れ、検討します。
	17 その他教育施設	<p><給食センター></p> <ul style="list-style-type: none"> 設備経費の効率を考え、4,000～5,000食規模のセンターとする。 食数規模から佐屋・立田センターを統合し、経費削減を図る。 改築（新築）の場所は、市有地を有効活用する。（学校給食立田センター付近） 人件費・維持管理費などの経費削減は、民間への管理委託やPFI手法の導入を検討する。 八開センターについても効率性を検討する。 	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体的に施設が新しいため、予防保全の考え方を踏まえて、計画的に施設の長寿命化を図るとともに、効率的・効果的な維持管理・運営に努めます。 面積当たりの配食数を見ると、2施設には差が見られるため、児童・生徒数の推移等を鑑み、効果的な維持管理・運営に努め、場合によっては、PFIなどの民間活力を導入し、経費削減に努めます。 	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体的に施設が新しいため、予防保全の考え方を踏まえて、計画的に施設の長寿命化を図るとともに、効率的・効果的な維持管理・運営に努めます。 維持管理・運営費を削減するために、愛西市学校給食センター以外の施設についても、PFIなどの民間活力の導入を検討します。 単独調理方式を採用している6校の学校や児童・生徒数の推移等を鑑み、統廃合等も視野に入れ、効果的な維持管理・運営に努め、財政負担の縮減に努めます。